

健康寿命延伸へ受診

弘前大学と弘前市が65～80歳の市民の健康状態を10年間追跡調査する「いきいき健診」が、同市の岩木文化センターあそべーるで始まった。今年度は8日からの7日間で1042人が受診予定で、新たに味覚検査なども加えて、認知機能との関連を調べるなどして、市民の健康寿命延伸につなげていく。(成田真由美)



弘大と弘前市が「いきいき健診」

味覚検査なども追加

いきいき健診は、2016年度からの10年間、弘大や九州大学など全国8大学が全国1万人を対象に、認知症の危険因子や予防方法を探るために行う大規模調査の一つ。対象者が隔年で受診する仕組みで、今年度は17年度の受診者が2回目の健診を受ける。9日は127人が参加。血圧測定や血液検査といったメタボリックシンドローム検査、握力、立ち上がりなど運動器の衰えをチェックするロコモティブシンドローム検査に加え、味覚、嗅覚、想起テストなどの認知機能と

の関連性を調べる検査を行った。中路重之特任教授は「これまでの対策の解明につなげた」と話した。